

助動詞 「き」「けり」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
き	せ	○	き	し	しか	○
けり	(けら)	○	けり	ける	けれ	○

◇接続

「き」「けり」とともに連用形接続になる。

「き」は例外として力行変格活用、サ行変格活用の未然形に接続することがある。

◇意味

○過去の助動詞 「き」

：経験過去（動作主が直接体験した過去を表す）「～た」

例）聞きしよりもまして、言ふかひなくぞ こぼれ破れたる。（土佐日記）

（聞いていたより、言い表すことができないほど、壊れ傷んでいる。）

○過去・詠嘆の助動詞 「けり」

① 伝聞過去（動作主が別の人方が体験した過去を表す）「～た」

例）年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに來けり。（伊勢物語）

（長年求婚しつづけてきたが、やつとのことで盗み出して、たいそう暗いところに来た。）

② 詠嘆（感動を表す）「～だなあ」

※ 詠嘆は会話文、心中を表す部分、和歌の中などでやすい。

例）月のいとはなやかにさし出でたるに、今宵は十五夜なりけりと思し出でて、：（源氏物語）

（月がたいそう明るく出たので、今夜は十五夜であつたなあとお思い出しになつて）

◇「せ」の識別

① 過去の助動詞 「き」 の未然形

↓ 連用形接続（例外あり）なので、上の語の活用形で判断。多くは「せば…まし」の形になる。

② 使役・尊敬の助動詞 「す」 の未然形・連用形

↓ 未然形接続なので、上の語の活用形で判断。

③ サ行変格活用の未然形

↓ 動詞として使われている場合、文脈から判断する。基本的には②と③の判断。